

全国 保健所長会 だより

全国保健所長会70周年

第74回全国保健所長会総会が平成29年10月30日(月)に鹿児島市で開催されました。前日まで台風の影響が懸念されましたが、当日は桜島の噴煙も美しく映える快晴となり、その後の日本公衆衛生学会ともども盛会となりましたことをお喜び申し上げます。

本年は新制保健所法制定後70年が経過した年であり、全国保健所長会が活動を開始して70年の節目の年となります。全国保健所長会ではこれを記念してこれまでの保健所長会の活動を記録する意味で記念誌等を作成し、総会においては記念講演会等を開催するとともに70周年記念特別表彰等を行います。

全国保健所長会70周年に向けて

『全国保健所長会70周年記念誌』編集委員会委員長／
全国保健所長会副会長／東京都荒川区保健所長

倉橋 俊至

した。

全国保健所長会では50周年、60周年においても記念誌作成等の同様の記念行事を行ってきておりますが、今回は記念誌等の編集・作成作業や費用面も含めて会員の多大なご協力をいただいております。記念誌編集や記念切手作成等の記念事業の一部はまだ進行中ではありますが、ここで皆さまに記念事業の概略を報告して記念事業へのご理解をいただくとともに、記念事業へのご協力に対する御礼としたいと思います。

今回実施する記念事業は大きく分けて次の3つです。

- (1) 記念誌の編纂・発行
- (2) 記念切手発行
- (3) 総会時の記念事業

また、総会時の記念事業はさら

に次の3つを実施しています。

- ① 70周年記念特別表彰
 - ② 記念講演会
 - ③ 記念シンポジウム
- 以下、これらの事業を順に説明してまいります。

70周年記念誌

周年記念行事の中核となる事業が記念誌の編纂・発行です。活動の記録として後世に残る有用な資料を作成することをめざしました。おおむね10年ごとに作成された過去の記念誌と同様に、祝辞、記念式典報告、全国保健所長会活動の歴史および活動記録等がその内容となります。活動記録としては、この10年間の保健所長会の活動を中心とした記録がその主な内

容となりますが、今回の記念誌の特徴としては委員会活動を重視したことが挙げられます。

全国保健所長会の委員会は現在、「地域保健充実強化委員会」「健康危機管理委員会」「公衆衛生医師確保と育成委員会」の3つの委員会が活動しています。委員会の担当する課題を思いつくまま挙げれば、精神保健、地域包括ケア、市区型保健所問題、感染症対応、災害対策とDHEAT、公衆衛生医師不足、社会医学系専門医制度、等々、数多くあります。委員会は現在これらの多数の重要課題について近年になく活発な調査研究活動を行っています。

記念誌編集委員会ではこの活動を記録するにあたって、単に討議項目を列挙するだけではなく、各

図 「保健所法制定70周年記念」(切手シートデザイン案)



委員会が必要に応じて専門家を交えて「座談会」を開催して現状と課題、活動と成果、今後の展望や提言等を討議していただき、その討議内容を委員会の活動記録として残そうということになりました。現時点で座談会は終了し編集作業に入っているとありますが、充実した討議内容となっているようですので、「座談会」という新しい試みの成果にぜひご期待いただきたい。

記念切手

もうひとつ斬新な企画として70周年記念切手作成事業があります。これは日本郵便オリジナル切手作成サービスを利用したもの

いと思います。
 なお、記念誌の発行予定は平成30年3月です。厚労省等の関係各所と全保健所に配付予定です。

で、切手シートデザインは自由に設定できるものです。
 作成にあたっては切手シートのデザインや頒布方法等の問題がありました。広報担当の常務理事や会長をはじめとする役員の方々の働きにより図(切手シートデザイン案)のようにすばらしい切手シートデザイン案ができました。このデザインを最終案として記念切手の注文を承る予定です。82円切手5枚の1シートで820円となります。1000シートという最低部数がありますので多くの皆さまのご購入をお願いしたいと思います。

切手の注文方法は都道府県を単位として必要数量をまとめていただき、都道府県会長または担当者さまが一括して事務局まで注文していただく方法でお願いしたいと思います。会員以外の方は個別に事務局までお問い合わせください。お手数をかけますが、どうぞよろしく願います。

なお、記念切手シートのタイトル表記は、保健所長会会員以外の方の購入も考慮して「保健所法制定70周年記念」としました。作成

者としての「全国保健所長会」の表記は右下にロゴマークを控えめに配置してあります。

総会時の記念行事

70周年記念特別表彰が保健所長会総会において行われました。これは通算20年以上の保健所勤務経験のある現役保健所長を対象とする表彰であり、今回は94名の方が受賞されました。賞状のほか、記念品として鹿児島県奄美大島特産の大島つむぎで作られた名刺入れが受賞者に贈られました。

また、鹿児島県保健所功労者特別表彰として、川元孝久(かわもとたかひさ)さま、内山裕(うちやまひろし)さまの2名が受賞されたほか、第63回全国保健所長会長表彰として55名の保健所の永年勤続職員が表彰されました。

記念講演会は「公衆衛生における医師の役割」と題して厚生労働省医務技監の鈴木康裕(すずきやすひろ)さまにご講演をいただきました。公衆衛生の原点となるご自身の経験やメガトランスフォーメイション等公衆衛生の課題を格

調高くご提示いただきました。

記念シンポジウム「地域保健における保健所の役割」は、総会記念行事としては最も重視した事業でした。はじめに、基調講演として座長の宇田英典会長から「保健所70年のあゆみ」と題して、対象の変化・体制の変化・機能の変化という3つの変化がキーワードとして紹介されました。清古愛弓所長からは社会学系専門医等の公衆衛生医師の人材育成について、中原由美所長からは精神保健における保健所の役割について、中本稔所長からは地域包括ケア推進について、木脇弘二所長からは災害対策について、中里栄介所長からは感染症対策について、各々専門的見地から保健所の役割を論じられました。大変充実した内容でしたが、討論の時間が不十分であったことが心残りです。

事業推進体制と事業予算

これら一連の記念事業は数年前から会長・副会長と庶務担当の役員等が中心となって準備を進めました。平成28年秋からは「70周

年記念誌編集委員会」が組織され、荒田吉彦委員長を中心に運営されました。平成29年度からは副会長倉橋が委員長を引き継ぐことになりましたが、実質的な事業推進は引き続き役員・各担当理事や委員会委員長等の多くの方々にお願いすることになりました。多くの皆さまに快くご協力いただき、人員体制として比較的早くから十分な体制が整いました。

それに対して、実は、今回の周年事業においては事業に必要な予算をいかに捻出するかが最も大きな課題でした。過去の周年事業では、数年前から計画的に必要な費用を積み立てていたようであり、記念事業の年度の予算決算会計にもだいぶ金額的余裕があったようなので、数百万円に及ぶ記念誌作成関連費用を無理なく予算計上しておりました。しかしながら、昨今の全国保健所長会の財政状況は大変逼迫しており、事前の準備金積み立てはできませんでした。そして、補正予算も含めて今年度の70周年記念対応費は105万円にとどまりました。

費用不足の最大の理由は、保健

所数の減少です。20年前には全国に800余の保健所がありました。現在は481保健所となりました。保健所長会の主たる収入である会費収入は1所当たり1万5000円と変わっていないため、およそ1200万円であった会費収入が現在は480万円減の720万円余となっています。一方、支出の多くを占める事業費はほとんど減少の要素はありません。委員会活動の活発化に伴って会議費等はむしろ増加傾向にあります。

このため70周年記念事業の費用を捻出あるいは節約する工夫をいたしました。まずは支出の節約に努め、費用の切り詰めを行いました。そして、同様のテーマで活動している地域保健総合推進事業等の研究班と密接に協力することにしました。具体的には、委員会と研究班を同日開催するなどして共通メンバーの旅費交通費等の効率的な支出に努めました。

しかしながら、このような節約と工夫を行ってもなお記念誌の印刷費および発送費等の費用が不足したため、やむなく会員に費

用の一部負担をお願いすることとしました。費用負担のお願いの際には費用負担の必要性について十分なお説明ができなかったかもしれないと反省いたします。

むすびに

多くの課題のある中を多くの皆さまのご理解とご協力を得て全国保健所長会70周年記念事業をなんとか実施することができました。とをご報告いたしますとともに、ご協力いただきました会員の皆さまならびに関係者の皆さまに深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

全国保健所長会70周年は大切な区切りではありますが、終わりではありません。70周年記念誌は当会の経過報告としてのまとめと記録を残させていただきます。

全国保健所長会としましては、今後とも保健所関係者の皆さまと力を合わせてともに保健所活動と地域の公衆衛生をさらに充実させてまいりたいと思っております。